

子供たちの「伸び」を見つめ、やる気を引き出す

埼玉県学力・学習状況調査

～子供たち一人一人の力を
最大限伸ばすことを目指して～

平成30年10月25日(木)
埼玉県教育委員会
教育長 小松 弥生

目次

1. 埼玉県学力・学習状況調査の概要・特徴

パネルデータ / IRT(項目反応理論) / 非認知能力など

2. 調査結果の活用

一人一人の子供への支援 / 効果的な指導の共有

3. 今後の展開・可能性

実施自治体の拡大 / 広がる活用可能性

未来を支え・プラチナ社会を
創り上げるのは子供

子供の環境や特性は多様化



学校教育の使命(埼玉教育が目指すのは)

**子供たち一人一人の力を
最大限「伸ばす」こと**

単に、テストの点数が高いから良い訳ではなく、
様々な環境にある子供たちの力をその子なりに「伸ばす」ことが重要

1. 埼玉県学力・学習状況調査の概要・特徴

子供たち一人一人の力を最大限「伸ばす」ことを目指して平成27年度から開始

調査対象

埼玉県内公立小・中学校(さいたま市を除く)
小学校4年生から中学校3年生

毎年約30万人

調査概要

(1) 児童生徒に対する調査

ア 教科に関する調査

小学校4年生から中学校1年生まで 国語、算数・数学

中学校2年生及び3年生 国語、数学、英語

イ 質問紙調査

学習への取組方法や学習意欲等に関する事項

(2) 学校及び市町村教育委員会に対する調査

学校における教科指導の方法等に関する事項

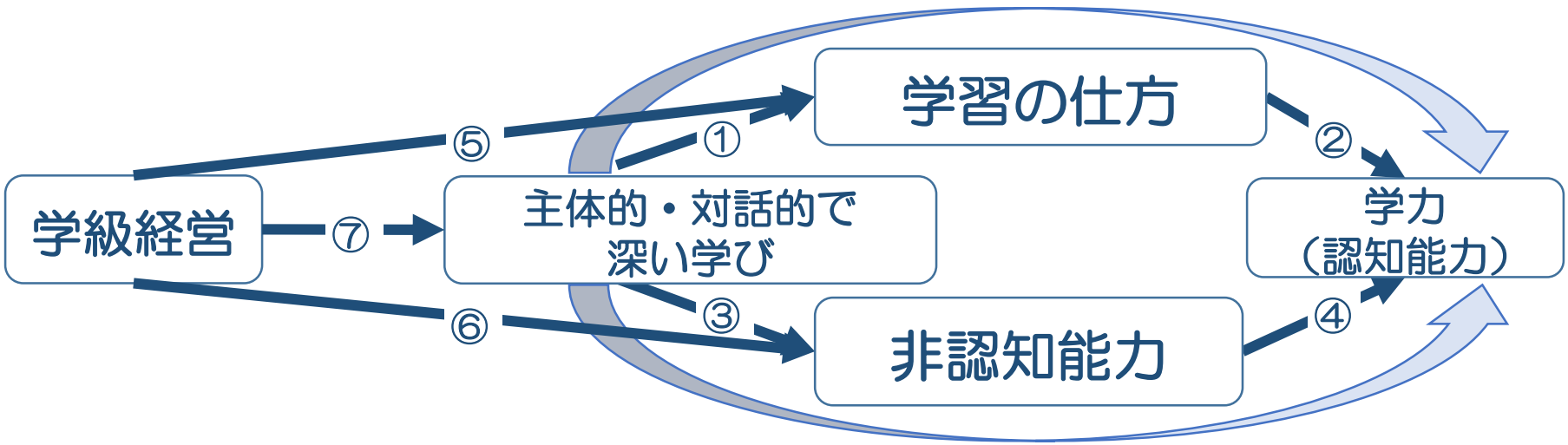
特徴

- ・同一児童生徒を6年間(小4から中3)継続的に把握(パネルデータ)
- ・毎年の設問の難易度をそろえる調査手法を活用(IRT:項目反応理論)
- ・非認知能力(自制心など)や学習の仕方にも注目して調査を実施

パネルデータとIRTの組み合わせにより

子供たちの学力の伸びを継続的に把握できる自治体初の調査

- ・学力向上の要因分析
- ・個に応じた指導
- ・効果的な指導を実施する学級や教員把握



■主体的・対話的で深い学びは、子供たちの学習の仕方の改善や非認知能力の向上を通じて、学力向上させる(①~④)

■学級経営が、主体的・対話的で深い学びの実現や、学習の仕方の改善、子供たちの非認知能力の向上に重要(⑤・⑥・⑦)

※埼玉県が調査結果(平成27~29年度)の分析を委託した慶應義塾大学SFC研究所(研究代表者:中室牧子氏)による分析結果 5

2. 調査結果の活用

一人一人の子供の状況に応じた支援

これまで見えてこなかった **子供たち一人一人の状況が見える**

- 伸び悩む子供には、つまづきを早期に発見し支援が可能
- 伸びた子供には、頑張りを認め、一層やる気を引き出したり、より高いレベルへの挑戦を促すための支援が可能

子供たち一人一人の学力に応じて活用できる復習シートの提供

子供たち一人一人に応じた指導カルテの作成と引継ぎ

埼玉県学力・学習状況調査 (中学校)

復習シート 第1学年 数学

組	番号	名前	前		
---	----	----	---	--	--



(「数と計算」を問う問題)

1 次の問題を解きなさい。

(1) $2.4 + \frac{1}{4} \times \frac{2}{5}$

レベル6

答え

(2) $\frac{5}{3} \div \frac{3}{10} \times 1.8$

レベル5

答え

2 次の□に当てはまる数を求めなさい。

(H30埼玉県学力・学習状況調査 1 (5)・改)

□ × 1.2 = 1

レベル10

答え

コバトンのびのびシート

教科 科目	年度	正答率	レベル	伸び	伸び率	達成率	伸び	伸び率	達成率
算数	H30	63.3	6-B	3 (1)	25.0	88.9			58.8
	H30	40.3	5-C	0 (2)	36.4	42.9			28.6
算数	項目		内容		H30	変化			
	AL		「主体的・対話的で深い学び」ができていたか		3.0	0.0			
算数	学習方法		学習方法		H30	変化			
	導 教 的 方 略		学習の進め方を自分の状況に合わせて柔軟に変更している回数		3.1	0.3			
	フロンティア方略		計画的に学習に取り組む活動		2.0	-0.2			
	作 業 方 略		ノートを書いたり、声に出したりといった作業を中心にして学習を進める活動		2.8	0.3			
	人際リソース方略		すぐにやり方や答えを聞かずに学習を進める活動		1.6	0.3			
算数	認知的方法		より自分の理解を深めるような学習活動		2.6	0.1			
	努力調整方略		「数千」等の感情をコントロールして学習への意欲を高める活動		3.1	0.3			
	自 制 心		自分の意思で感情や欲求をコントロールすることができる力		2.7	0.2			
学力・A1・学習方略		学習方略と非認知能力の変化		学力レベルの変化					

【年・組・氏名】6年1組15番

実力テスト(国語)										実力テスト(算数)									
国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
78	87	40	87	89	20	67	85	50	45	70	40								
88	68	56	80	88	27	70	66	50	66	80	45								

伸ばしたいところ

国語 読む 話す 聞く 書く 漢字 書写の姿勢

算数 計算 図形 割合 割合と百分率 割合と百分率の活用

その他 文章問題を解くスピードを上げる

より難しい問題に挑戦することも、
難易度の低い問題に立ち返ることも可能

- ・ 一人一人の状況を踏まえた授業改善、教員間の情報共有
- ・ 子供たちへの継続的な指導を実現

2. 調査結果の活用

効果的な指導の共有

データに基づき、**効果を上げた学級・教員が見える**

■ **効果的な取組の共有、指導改善PDCAサイクルの確立、教員の育成**

①効果を上げた学級・教員の把握

クラス	伸びた児童の割合	
	国語	算数
5-1	73.4%	96.5%
5-2	91.8%	75.1%

データに基づくPDCA

④ 県学調での
効果検証

② 効果的な取組を共有

③ 指導改善の実施

教員の指導力向上



まだまだ発展途上ではあるが...

本調査を軸に、データに基づく指導(EBPM)と個に応じた指導の文化を構築

3. 今後の展開・可能性

実施自治体の拡大

平成30年度から

広島県福山市、福島県郡山市、福島県西会津町

平成31年度から

埼玉県: 累計約120万人分(毎年約30万人×4年)のデータ
福島県: 毎年約8万人分のデータ

福島県全域 で本調査を共同実施

埼玉県学力・学習状況調査



×



福島県西会津町
FUKUSHIMA NISHIAIZU TOWN

平成30年6月28日に教育データ分析で協定

- 自治体間の効果的な指導の共有など、情報共有・連携の促進
- 県外へ転出・転入する児童・生徒にも継続性のある指導

3. 今後の展開・可能性

広がる活用可能性

本調査に関心のある自治体や大学、
民間企業等とコンソーシアムを開催



※ () は過去3回のコンソーシアムの参加主体の数

<参加者からの意見概要>

自治体：調査結果は学校現場の授業改善に非常に有益

大学：本調査から見えてくる効果的な指導は、
教員養成課程でも活用したい

民間企業等：企業の人材育成にも活用の可能性

本調査手法の応用などにより・・・

- ・大学での教員養成課程との連携
- ・民間企業での人材育成
- ・日本式教育パッケージ(効果的な指導＋効果検証)の海外輸出
- ・民間企業による学習ツールの開発

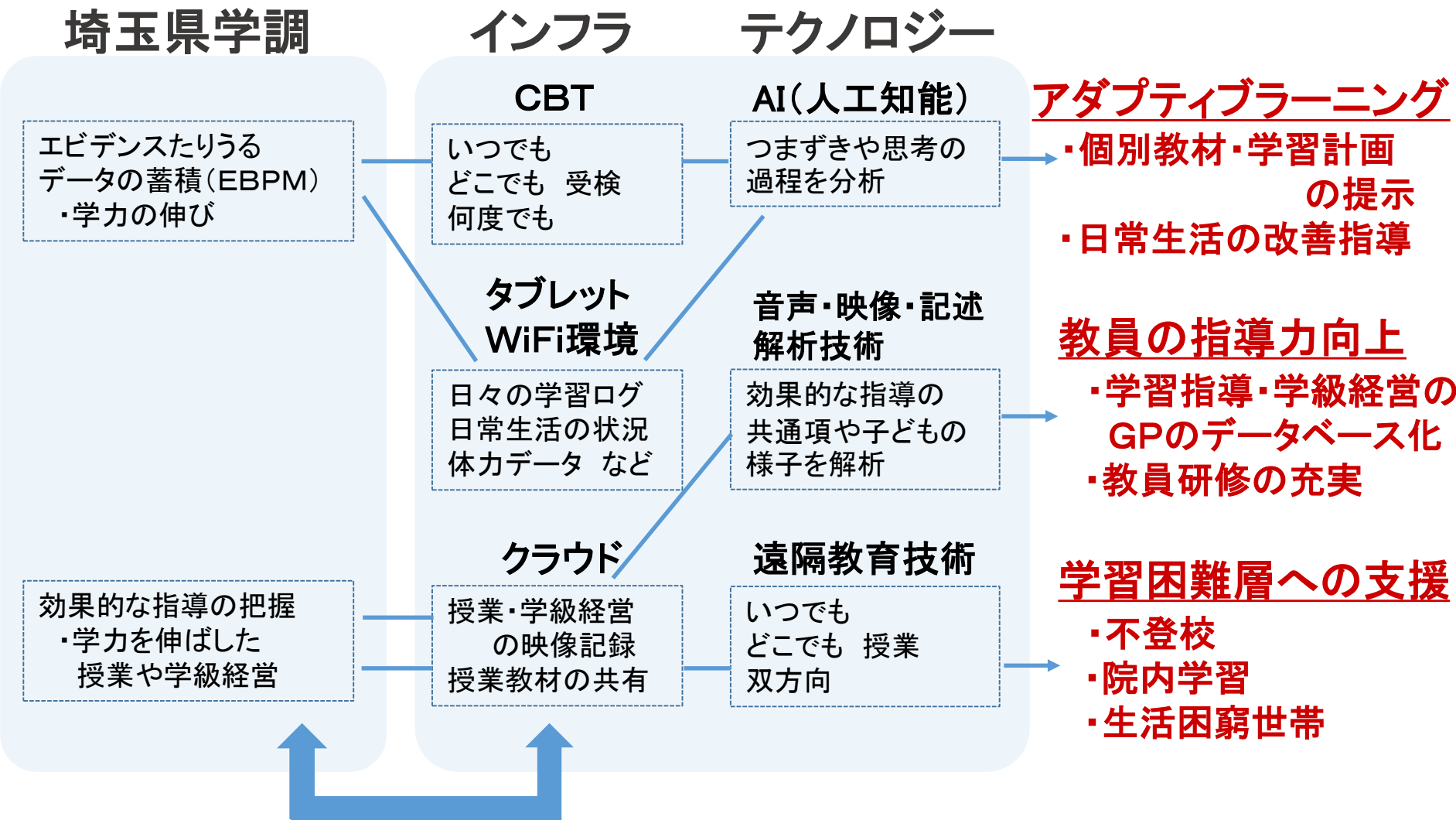
OECDの
シュライヒャー教育・スキル局長も評価



非認知能力に注目している点や、
世界的に見ても非常に有益なデータであり、
これからの世界の教育を考えるうえでも参考に
したいと高い評価をいただきました。

3. 今後の展開・可能性

一人一人を伸ばすための新たな学び(アダプティブラーニングなど)の実現を目指して



更なるビッグデータの蓄積 = 更なるEBPM

御清聴ありがとうございました

未来を創る子供たち一人一人の力を
最大限伸ばせるよう引き続きチャレンジしてまいります。